

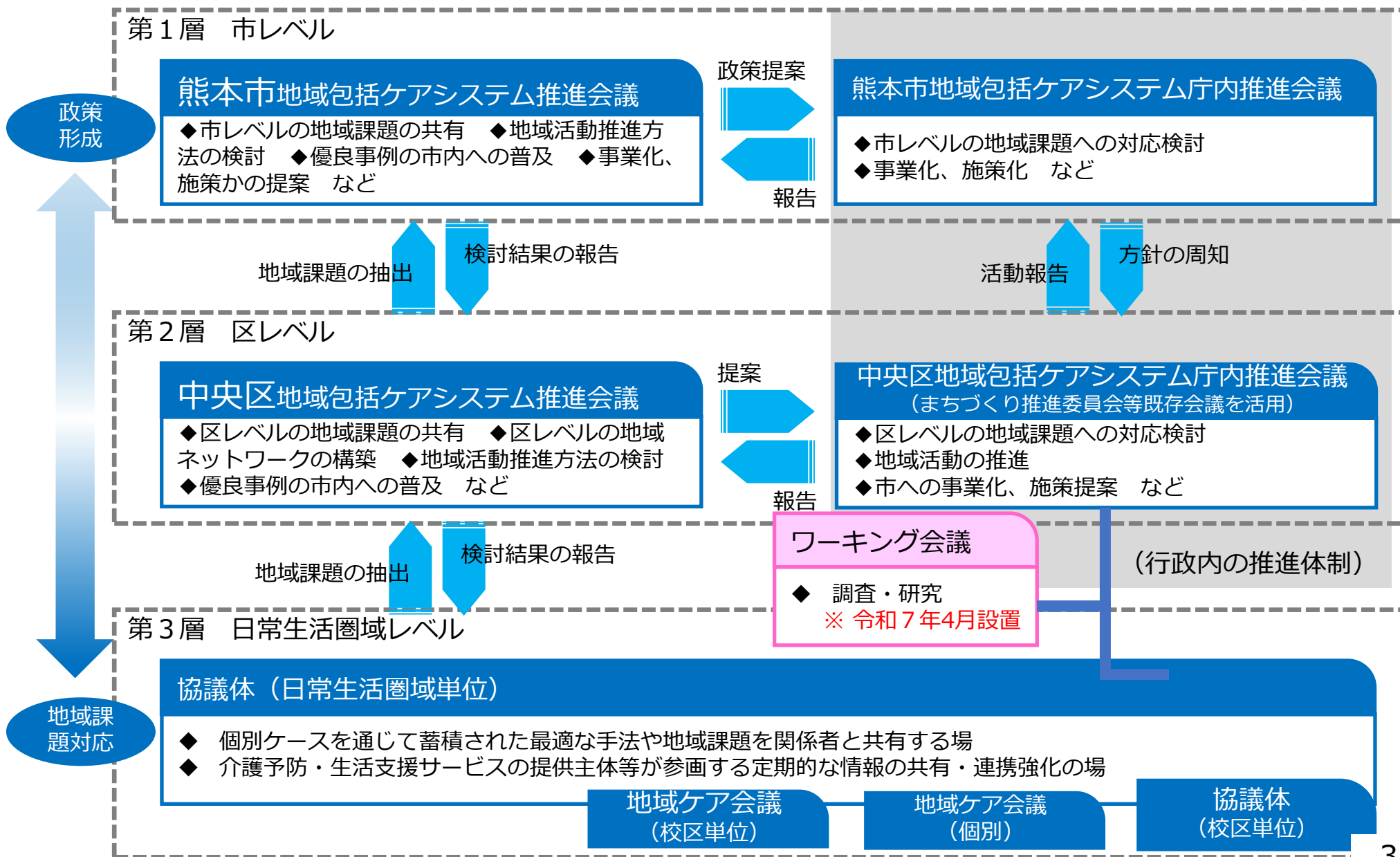
令和7年度 中央区地域包括ケアシステム 推進会議（第2回）

令和8年（2026年）2月26日（木）
熊本市 中央区役所

議事（1）

熊本市地域包括ケアシステム 推進会議報告

地域包括ケアシステム推進体制



市・推進会議の内容

※ 次の別添資料をご参照ください

- ・ 資料 1 熊本市地域包括ケアシステム推進会議資料
- ・ 資料 2 熊本市地域包括ケアシステム推進会議 議事録

議事（２）

中央区の取組報告

お互いさまのまちづくり推進事業（取組内容）

圏域	日付	テーマ	参加人数	参加者属性	重点項目 (※1)
中央	11月26日	認知症であっても安心して暮らせるまちづくり	53名	地域住民、民生委員、圏域内居宅、社協、福祉課、認知症コールセンター	㊦
本荘	12月9日	安心して我が家で生活するための在宅医療とサービス	73名	地域住民、医療機関、行政、介護事業所、行政、講師	㊦
子飼	12月11日	みんなで考えよう おひとり暮らしの看取り・尊厳死・地域後見	80名	住民、居宅CM、医療機関、大学教員、訪看、介護事業所、薬剤師、行政書士、宅配業者、見守りロボット販売スタッフ、NPO法人、高齢者住宅案会事業所、認知症コールセンター、障がい者相談支援センター、市社協、行政	㊦
天神	11月22日	㊦想いを行動へ ～「おたがいさま」の輪をひろげよう～	52名	自治会長、民生委員、介護事業所、医療機関、薬局	㊦
	1月30日	㊦人生会議について考えてみませんか？ ～あなたの思いをつたえるために～	58名	地域住民、自治会長、民生委員、介護事業所、医療機関、薬局	㊦
水前寺	10月15日	地域ぐるみで支え合う社会へ ～生きづらさに寄り添う支援のかたち～	58名	校区住民、居宅支援事業所、サービス事業所、包括職員	㊦
帯山	12月11日	地域の絆繋がるプロジェクト ～育てよう町内の輪、校区の未来に向けて～	90名	地域住民、学識者、医療機関、障がい者相談支援センター、包括、居宅、訪看、通所、訪問、大学生、社協、行政、NPO法人	㊦

※1 重点項目

- ㊦ 自立支援や重症化予防
- ㊦ 高齢者の生きがいの創出
- ㊦ 地域で支え合う体制
- ㊦ 認知症高齢者の見守り体制



お互いさまのまちづくり推進事業（自己評価）

評価項目		中央	本荘	子飼	天神		水前寺	帯山
					①	②		
① 独自性	事業実施地域の特性を活かした取組であるか	4	3	4	3	4	4	4
② 展開可能性	他の分野、他の地域の事業主体等に対して参考となる取組であるか	4	3	4	4	4	4	4
③ 継続性	人材や運営コスト等を考慮した上で無理なく継続できる取組であるか	4	3	4	4	3	4	3
④ 先進性	事業に関わる市町村の庁内での連携や他団体との連携が先駆的であり他の模範となるような取組であるか	3	3	4	3	4	4	3
⑤ 発展性	将来に向けて波及、応用が期待される取組であるか	4	3	4	4	4	4	4
⑥ 妥当性	計画から結果までを分析・評価している取組であるか (PDCA サイクル)	3	3	3	3	4	4	3
⑦ 多様性	多職種が事業に関わり連携している取組であるか	3	3	4	4	4	4	4
⑧ 住民主体性	地域に暮らす多様な住民が実施に至る過程に参加できる取組となっているか	4	3	3	4	4	4	3
合計		29	24	30	29	31	32	28

※ 40点満点

※ ささえりあ天神は研修会を2回実施

お互いさまのまちづくり推進事業（各圏域の総評）

中央	<ul style="list-style-type: none"> 地域から認知症の方の対応についての相談や認知症について知りたいという声が多くあり、中央区基本指針でもある「認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる」に基づき開催した。今回サービス事業所にも参加呼びかけし申し込みはなかったものの、認知症コールセンターや社協、圏域内居宅からの参加もあり地域住民との関係づくりの場となった。 講義や、ケアマネが入ったのグループワークを通して、認知症を正しく理解し、地域で考えていく機会となった。 今回の研修会后、もっと対象を広く研修会をやるべき、との意見があり、今後は地域にある民間企業（銀行・スーパー・コンビニなど）の参加を呼びかけ、地域住民と企業も巻き込んだ研修会を企画し、チームオレンジにつなげていければと考える。
本荘	<ul style="list-style-type: none"> これまで実施したお互いさまのまちづくり事業により把握した地域課題である、支え合いと在宅医療の取り組みを圏域内で推進する必要がある事を踏まえ、今年度は在宅医療について理解を深める取り組みとともに、在宅医療を選択する上で住民が課題に感じる事や、地域に必要な取り組みを把握するためのアンケートを実施した。 経済的な負担や自分の望む医療が選択できるか、家族への負担、急変時の対応、自分の望む介護が選択できるかが気になるとの回答があったこと、人生会議を知らないまたは言葉は聞いたことはあるがよく知らないとの意見が多かったことを踏まえ、今後の取り組みに活かしていきたいと思う。
子飼	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度は、ひまわり在宅クリニック 理事長・院長 後藤 慶次 先生の講話などにより、おひとり暮らしになっても自分らしく最期まで過ごしたい、という当事者の想いが参加者で共有されて、住民や多業種が多職種が規範的に統合され、地域に「お互いさま」という信頼やネットワークが構築された。 今後、それを資本に「まちづくり」を推進させていく方針で継続実施する方針である。
天神	<ol style="list-style-type: none"> 今回の研修では、支え合いの関係づくりや地域で必要となる活動について地域と多職種で具体的に話し合う機会を作ることができた。今後より具体的に活動につなげられる場として各校区の協議体の立ち上げを検討している。 本研修では人生会議を通して住み慣れた地域で暮らし続ける選択ができるきっかけをつくることができた。今後は住み慣れた地域で暮らし続けるための視点を個人から地域へと広げていきたい。
水前寺	<ul style="list-style-type: none"> 地域ぐるみで支え合う社会へ～生きづらさに寄り添う支援のかたち～と題して開催し、自治会や民生委員の地域住民の参加と居宅やサービス事業所とのグループワークで活発な意見交換がなされ、権利擁護の難しい事例ではあったが、参加者がわが事として考える機会となった。 また、専門職の講師からアドバイスを受け、建設的な支援方法も見出すプロセスが理解できたとの声もあり、有意義な研修会となった。
帯山	<ul style="list-style-type: none"> これまで集いの場に焦点を充ててきたが、今回高齢社会における介護保険制度の限界を可視化し、社会資源、生活支援について地域を主体に検討を実施した。 カードゲームを活用し、より身近な自分の未来に起こりうる実情として捉えるアプローチを行う事で漠然とした課題ではなく、地域の中で起こっている事として検討できた事は一定の評価ができると思うが（アンケート結果から評価し）、今後小地域にこの課題をおろしていく必要性や、より多くの住民にこの実情を踏まえて将来の地域の形を検討する必要性については、より具体性を持った取組みが必要であると思う。

関係団体の取組（これまでの取組、成果や効果）

※資料4から抜粋

基本目標	取組の方針	項目	第1期の取組
1 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう	(2) 多様な介護予防活動の拠点をつくる	① 「元気くらぶ」等介護予防活動の町内ごとの推進	<ul style="list-style-type: none"> フレイル予防をテーマにした講話。「健康意識が高まった」「家庭で実践している」等生活習慣の改善への意識が定着。【食改】 地域と協力して徒歩圏内で通いの場を立ち上げ、距離や開催日、内容などにより選んで参加できる体制を整えた。【中2】
2 これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう	(2) 介護が必要になっても自分らしい生き方が継続できる地域をつくる	① 自分らしい生き方に気づけるための意識づくり	<ul style="list-style-type: none"> 中央支部総会で「人生会議セミナー」を企画実施。【8020健康づくりの会】
3 当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう	(1) 当事者（要介護者・家族）の日々の暮らしに寄り添える医療・介護サービスを行う	② 自立を促す介護サービスの提供に向けた、かかりつけ医と地域包括支援センターとの連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各地域での地域会議への対応【熊本市歯科医師会】 居宅介護支援事業者協議会にて、毎年「主治医との連携セミナー」を開催し連携の充実にに向けて取り組んでいる。【熊本県介護支援専門員協会】
4 いざという時もみんなでき支え合えるよう日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう	(1) 老いも若ききも、元気な人も、支援が必要な人も共につながって支え合う地域をつくる	① 身近な地域で気軽に相談できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> コールセンター事業では、水曜日以外9～17時までいつでも相談を受け付けている。傾聴だけでなく、関係機関につなぐ等、関係機関との連携も強化している。【認知症の人と家族の会】
		② いざという時も助け合える見守りの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域の民生委員等と協力して何情報があればささえりあとも協力しながら適時対応している。【障がい者相談支援センター】
	(2) 認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる	① 認知症について全世代で学習する機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座を校区の全世帯に向けて回覧し、認知症を理解して学習することにする。認知症サポーターを育成する。【託麻原校区自治協】
		② いざという時に適切に対応できる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者の所在不明事案や保護等を取り扱うことがあり、その際に高齢福祉課やささえりあの協力により、認知症高齢者の親族等に早期に連絡を取ることができた等あり。【熊本県警】

関係団体の取組（来年度以降取組みたいこと）

※資料4から抜粋

基本目標	取組の方針	項目	今後の取組
1 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう	(2) 多様な介護予防活動の拠点をつくる	① 「元気くらぶ」等介護予防活動の町内ごとの推進	<ul style="list-style-type: none"> 百歳体操の実施団体・実施場所を増やす。【民児協】 一人暮らし高齢者向けに簡単・手軽な一皿メニューの紹介。食事・運動・口腔ケアを一体化した介護予防プログラムの実施【食改】
2 これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう	(2) 介護が必要になっても自分らしい生き方が継続できる地域をつくる	① 自分らしい生き方に気づけるための意識づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自分にできるボランティアなど町内の話し合いの時間づくり【託麻原校区自治協】 食事を囲むことで「自分らしさ」について自然に話し合える場づくり【食改】 研修会や校区リーダー会を通じて周知【8020健康づくりの会】
3 当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう	(1) 当事者（要介護者・家族）の日々の暮らしに寄り添える医療・介護サービスを行う	② 自立を促す介護サービスの提供に向けた、かかりつけ医と地域包括支援センターとの連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報交換会や合同研修会を通じて、医師・看護師・ケアマネージャー・栄養士・食改等が顔の見える関係を構築【食改】
4 いざという時もみんなでき支え合えるよう日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう	(1) 老いも若ききも、元気な人も、支援が必要な人も共につながって支え合う地域をつくる	① 身近な地域で気軽に相談できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な声掛け活動【8020健康づくりの会】 障がいに関する情報提供、身近な相談できる場としての啓発活動【障がい者相談支援センター】 世帯の情報把握【民児協】
		② いざという時も助け合える見守りの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域と利用者との情報共有【熊本県介護支援専門員協会】
	(2) 認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる	① 認知症について全世代で学習する機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 働き世代へのサポーター養成講座【認知症の人と家族の会】 異変に気付いたときの連絡体制を地域で共有【食改】
		② いざという時に適切に対応できる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 認サポや高齢者疑似体験が多世代交流につながる取組【中6】

議事（3）

第2期推進方針（案）

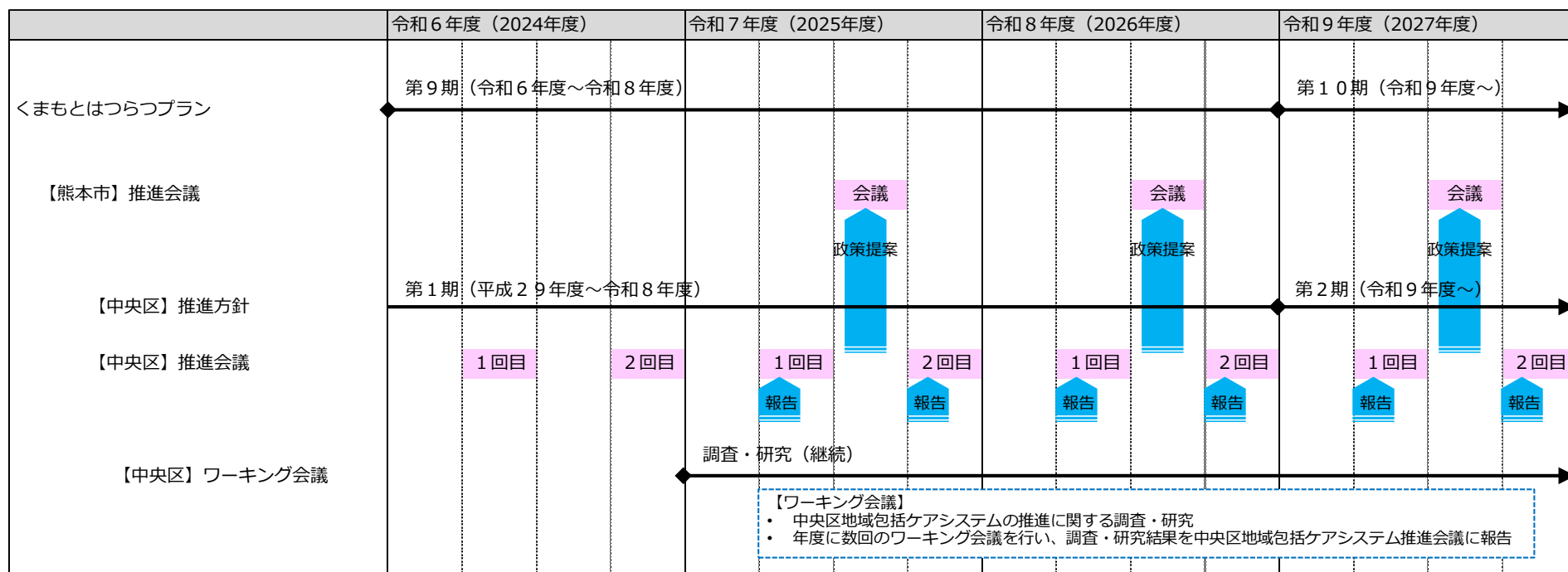
中央区地域包括ケアシステム推進方針（第2期）策定までの流れ

- 中央区の推進方針（第2期）については、くまもとはつらつプラン（第9期）に併せ、令和9年度（2027年度）からを計画期間として策定。

令和7年度（2025年度） 推進方針（第2期）素案を作成し、【中央区】第2回推進会議へ提案

令和8年度（2026年度） 【中央区】推進会議において、推進方針（第2期）を策定

令和9年度（2027年度） 推進方針を基に、地域包括ケアシステムを推進



※ 第2期中央区地域包括ケアシステム推進方針（案）については資料5をご参照ください。

ワーキング会議（第1回）

日付 令和7年（2025年）5月19日（月）

参加者 26人（各ささえりあ、まちづくりセンター、総務企画課、保護課、保健こども課、福祉課）

作業内容

- これまでの取組の情報共有
- 2040年に向けた課題の洗い出し
- 今後、重点的に取り組みたい項目の検討

（2040年を見据えた課題）

㊦ 高齢化の進展と社会の変化

- 85歳以上の高齢者が増加
- 単身独居の高齢者が増加
- 認知症の人が増加
- 後期高齢者への支援が増大
- 骨粗鬆症や糖尿病など、健康課題が増加
- 高齢者の在宅生活における人材不足

㊧ 医療費や介護費に関わる財政圧迫

- 高齢者の増加に伴い医療費が増大
- 介護保険サービスへの影響
- 生活保護申請が増加
- 糖尿病による合併症など、要介護者が増加

㊨ 担い手不足

- 自治会役員の高齢化
- 自治会加入率の低下
- 民生委員のなり手不足
- ボランティアの高齢化
- ヘルパー不足に伴い在宅介護サービスが不足
- 医療、福祉に携わる職員が不足

㊩ ニーズの多様化と地域の希薄化

- 障がいのある方が高齢化し、課題が複雑化する
- 地域住民同士の交流の希薄化
- 孤立化、孤独化
- 世代間の分離
- 買い物支援、移動支援が必要な人が増加

ワーキング会議報告

ワーキング会議（第2回）

日付 令和7年（2025年）6月2日（月）

参加者 25人（各ささえりあ、まちづくりセンター、総務企画課、保護課、保健こども課、福祉課）

作業内容

- 重点的取組について、連携できること
- 重点的取組の優先順位

（区で連携できる優先的な重点取組）

㊦ 自立支援や重症化予防

- 短期集中予防サービスの終了後も継続して自立支援・重症化予防を図るための集いの場の拡充
- 介護予防を継続するための受け皿づくり
- 通いの場への移動支援

㊧ 高齢者の生きがいの創出

- 意欲のある高齢者と、活躍できる場のマッチング促進
- 世代間で情報技術を活用できる人とできない人の格差（デジタルデバイド）を埋めるための取組
- 地域のボランティア活動を活性化するため、くまもとアプリの普及を進める。
- 元気なうちに自分らしい生き方に気づいてもらう人生会議（ACP）の普及促進

㊨ 地域で支え合う体制

- 地域住民同士の交流を促進するための取組
- 孤立防止のため、地域と繋がる機会を増やす取組
- 学校やこども会を通じ、若い世代に自治会活動や見守り活動を知ってもらう取組

㊩ 認知症高齢者の見守り体制

- 認知症サポーターやキッズサポーター講座に親子で参加してもらう取組
- 地域の行事等で、認知症への理解や対応に関する周知・啓発を強化する取組

ワーキング会議報告

ワーキング会議（第3回、第4回）

日付 第3回 令和7年（2025年）10月30日（木）、第4回 令和7年（2025年）11月21日（金）

参加者 第3回 18人、第4回 15人

（各ささえりあ、まちづくりセンター、総務企画課、保護課、保健こども課、福祉課）

作業内容

- ・ 重点的取組の絞り込み
- ・ 指標（案）、検証項目の検討

基本目標	取組の方針	項目	第2期の重点的取組
1 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう	(2) 多様な介護予防活動の拠点をつくる	① 「元気くらぶ」等介護予防活動の町内ごとの推進	<自立支援・重症化予防のための取組> 短期集中予防サービス修了後の活動の場の充実として → 短期集中予防サービス修了者の継続支援と“活躍の機会”創出（町内や校区を越えた通いの場を設置する、男性の参加を促すための取組等）
		② 医療・介護専門職と連携した住民主体の介護予防活動の維持継続	
2 これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう	(2) 介護が必要になっても自分らしい生き方が継続できる地域をつくる	① 自分らしい生き方に気づけるための意識づくり	<高齢者の生きがいを創出するための取組> もしもの時に備えて自分らしく生きるための取組として → ACP（人生会議）に関連した取組の促進（中央区版もしばなゲーム作成や動画配信など）
4 いざという時もみんなできあがるよう日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう	(1) 老いも若ききも、元気な人も、支援が必要な人も共につながって支え合う地域をつくる	① 身近な地域で気軽に相談できる体制づくり	<地域で支え合う体制を構築するための取組> 地域とつながる機会の確保として → 既存の多世代でつながる場の普及（学生や子育て世代、高齢者など各世代に向けた既存のつながる場の情報発信など） → 多世代交流の機会の拡充・創出（地域イベントやこども食堂等で多世代が継続的につながる取組など）
		② いざという時も助け合える見守りの仕組みづくり	
	(2) 認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる	① 認知症について全世代で学習する機会の充実	<認知症本人、家族を見守る体制構築のための取組> 認知症を理解するための普及活動として → 認知症への理解促進と理解を深めるための機会の充実（親子参加の学校行事や通いの場、こども食堂等で認知症サポーター養成講座開催など） → 認知症カフェの周知（地域イベントで啓発ブース設置など）
		② いざという時に適切に対応できる仕組みづくり	

第2期推進方針バージョン

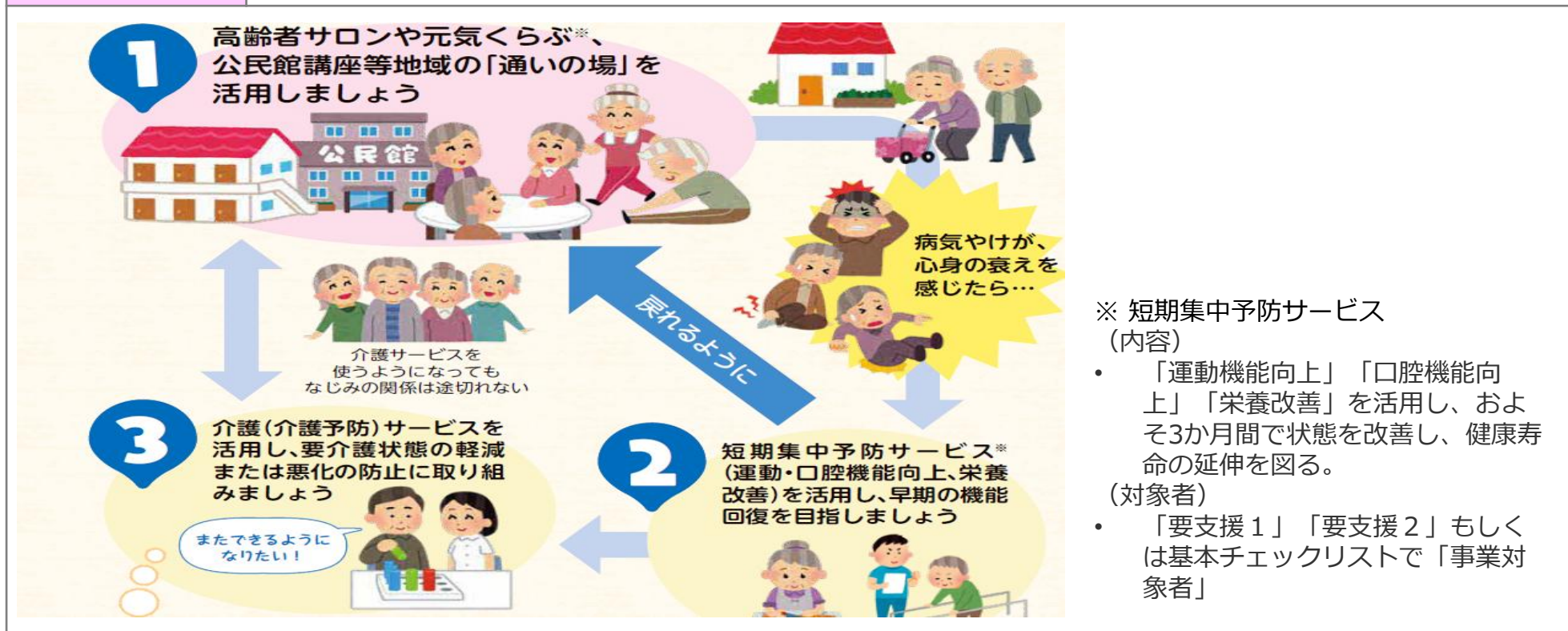
基本目標	取組の方針	項目	第2期の重点的取組
1 人生100年時代、健康づくりと介護予防に取り組もう！	(2) 多様な介護予防活動の拠点をつくる	① 「元気くらぶ」等介護予防活動の推進 ② 医療・介護専門職等と連携した住民主体の介護予防活動の維持継続	<自立支援・重症化予防のための取組> 短期集中予防サービス修了後の活動の場の充実として → 短期集中予防サービス修了者の継続支援と“活躍の機会”創出（町内や校区を越えた通いの場を設置する、男性の参加を促すための取組等）
2 これまでの経験を活かし、地域とつながり続けよう。生きがいを見つけて、自分らしく過ごそう！	(2) 介護が必要になっても自分らしい生き方が継続できる地域をつくる	① 自分らしい生き方に気づけるための意識づくり	<高齢者の生きがいを創出するための取組> もしもの時に備えて自分らしく生きるための取組として → ACP（人生会議）に関連した取組の促進（中央区版もしばなゲーム作成や動画配信など）
3 当事者の気持ちに添えるよう多職種・異業種で力を合わせよう！	(2) 認知症本人を正しく理解し共に暮らせる地域をつくる	① 「新しい認知症観」について全世代で学習する機会の充実 ② 認知症を適切に理解し、支え合える仕組みづくり	<認知症本人、家族を見守る体制構築のための取組> 認知症を理解するための普及活動として → 認知症への理解促進と理解を深めるための機会の充実（親子参加の学校行事や通いの場、こども食堂等で認知症サポーター養成講座開催など） → 認知症カフェの周知（地域イベントで啓発ブース設置など）
4 いざという時もみんなでき支え合えるよう日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう	(1) 老いも若ききも、元気な人も、支援が必要な人も共につながって支え合う地域をつくる	① 身近な地域で気軽に相談できる体制づくり ② いざという時に適切に対応できる仕組みづくり	<地域で支え合う体制を構築するための取組> 地域とつながる機会の確保として → 既存の多世代でつながる場の普及（学生や子育て世代、高齢者など各世代に向けた既存のつながる場の情報発信など） → 多世代交流の機会の拡充・創出（地域イベントやこども食堂等で多世代が継続的につながる取組など）

評価指標	定義	上位計画
65歳以上の元気な高齢者の割合	65歳以上の高齢者の内、要介護・要支援の認定を受けていない者の割合	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会対策大綱（国） 第8次総合計画（市） ※1 はつらつプラン（市） ※2
地域における通いの場の数	地域で開催されているサロン活動や介護予防活動の場 （例） 元気くらぶ、通所B、いきいきサロンなど	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会対策大綱（国） はつらつプラン（市） 地域福祉計画（市）
地域活動に参加した市民の割合	熊本市第8次総合計画の市民アンケート「あなたは、過去1年間に地域活動（自治会等の活動、ボランティア、NPOの活動な）に参加したことがあるか」の問いに参加したことがあると回答した人の割合	第8次総合計画（市）
		地域福祉計画（市）
チームオレンジの数及び認知症サポーターの数	「熊本市チームオレンジ」として認定した地域団体数及び認知症サポーター養成者の数	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会対策大綱（国） はつらつプラン（市）

※1 熊本市のすべての計画の最上位に位置づけられる 令和6年度（2024年度）から令和13年度（2031年度）の8年間
 ※2 地域包括ケアシステムを推進するための計画 令和6年度（2024年度）から令和8年度（2026年度）の3年間

<自立支援・重症化予防のための取組>

重点取組	<ul style="list-style-type: none"> 短期集中予防サービス修了者の継続支援と“活躍の機会”創出 【 町内や校区を越えた通いの場を設置する、男性の参加を促すための取組等 】
検証項目	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防につながる活躍機会の新たな創出 修了生が介護予防に参加した件数（活動機会数）



<高齢者の生きがいを創出するための取組>

重点取組	<ul style="list-style-type: none"> ACP（人生会議）に関連した取組の促進 【中央区版もしばなゲームを作成し研修を動画配信する等】
検証項目	<ul style="list-style-type: none"> ACP（人生会議）に関連した取組の創出 研修会の参加者数

～ 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）～

- 大事にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを受けたいかを、自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと共有しておくこと。
- 何度でも繰り返し考え話し合うことが大事。

ACP関連

… 財産（デジタル遺産含む）、葬儀など広義の意味



人生会議の日：11月30日（いい看取り）

<地域で支え合う体制を構築するための取組>

重点取組	<ul style="list-style-type: none"> 既存の多世代でつながる場の普及 【 学生や子育て世代、高齢者など各世代に向けた既存のつながる場の情報発信を行う等 】 多世代交流の機会の拡充・創出 【 地域イベントやこども食堂等で多世代が継続的につながる取組を行う等 】
検証項目	<ul style="list-style-type: none"> 既存の多世代の繋がる場の参加者数 拡充・創出した多世代交流の場

～ 熊本市SNS（ソーシャルメディア）～

- X (エックス) ※ 旧Twitter (ツイッター)
- Line (ライン)
- YouTube (ユーチューブ)
- Instagram (インスタグラム)
- Facebook (フェイスブック) など

<認知症本人、家族を見守る体制構築のための取組>

重点取組	<ul style="list-style-type: none"> 認知症への理解を深めるための機会の充実 【親子参加の学校行事や通いの場、こども食堂等で認知症サポーター養成講座を開催する等】 認知症カフェの周知 【地域イベントで認知症ブースを設置し啓発する等】
検証項目	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の理解促進のために行った取組の創出

～ 認知症サポーター ～

- 認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。



人生会議の日：9月21日（世界アルツハイマーデー）

評価項目	
① 独自性	事業実施地域の特性を活かした取組であるか
② 展開可能性	他の分野、他の地域の事業主体等に対して参考となる取組であるか
③ 継続性	人材や運営コスト等を考慮した上で無理なく継続できる取組であるか
④ 先進性	事業に関わる市町村の庁内での連携や他団体との連携が先駆的であり他の模範となるような取組であるか
⑤ 発展性	将来に向けて波及、応用が期待される取組であるか
⑥ 妥当性	計画から結果までを分析・評価している取組であるか (PDCA サイクル)
⑦ 多様性	多職種が事業に関わり連携している取組であるか
⑧ 住民主体性	地域に暮らす多様な住民が実施に至る過程に参加できる取組となっているか

引用：九州厚生局「地域共生社会の実現に向けた取組に係る地域共生社会推進賞実施要領の「審査手順」より

議事（４）

意見交換

(Memo)

A large empty rectangular area defined by a dashed pink border, intended for handwritten notes or a memo.